

上ノ国町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

上ノ国町は、人口約4,700人の第一次産業を基幹産業とする過疎地域である。路線バス（小砂子線）はJR江差線線区廃線に伴い運行された地域間幹線バス（江差木古内線）と一部運行区間が重複することなどから廃止されたが、商業施設及び教育施設は中心市街地に集中し、病院は隣町への通院等が余儀なくされていることから、未成年者及び高齢者等を中心に通院、買い物、通学など生活のために生活路線バスは必要不可欠なものであり、また本町と松前町の間で公共交通機関の空白地帯があり支障を来していることなどの解消も求められていた。

本事業により、新たな路線バス（小砂子線）を松前町から江差町までの区間で運行し、また江差木古内線と接続することにより、住民の生活交通手段を存続させていくことが今後も必要と考えている。

生活交通確保維持改善計画の目標

小砂子線を運行・維持することにより、町内海岸部集落の高齢者等の日常生活に必要不可欠な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行形態が実現でき、外出促進・地域活性化にも繋がる。

また、公共交通機関の交通空白地帯を解消することにより、利用者の増加に繋がる。

【目標】

- ・平均乗車密度 1,150人
- ・利用者数 1,950人（人口千人あたり）

令和4年度事業概要

○小砂子線 運行日数：364日 運行回数：1,574回
江差ターミナル～小砂子～原口漁港前 3回／日
江差ターミナル～小砂子 1,5回／日

地域公共交通の現況

○函館バス株式会社（2路線）
・小砂子線（地域内フィーダー系統）
・江差木古内線（広域生活交通路線）
○スクールバス（3路線）

協議会開催状況

○令和4年8月23日
上ノ国町地域公共交通活性化協議会設立総会（書面総会）
・構成団体代表者より上ノ国町地域公共交通活性化協議会設立の同意を得た
○令和4年9月13日
第1回上ノ国町地域公共交通活性化協議会
・上ノ国町地域公共交通活性化協議会設置要綱
・上ノ国町地域公共交通活性化協議会事務局規程
・上ノ国町地域公共交通活性化協議会財務規則
・上ノ国町地域公共交通活性化協議会令和4年度事業計画・予算
○令和5年1月24日
第2回上ノ国町地域公共交通活性化協議会
地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価

令和4年度事業の実施状況

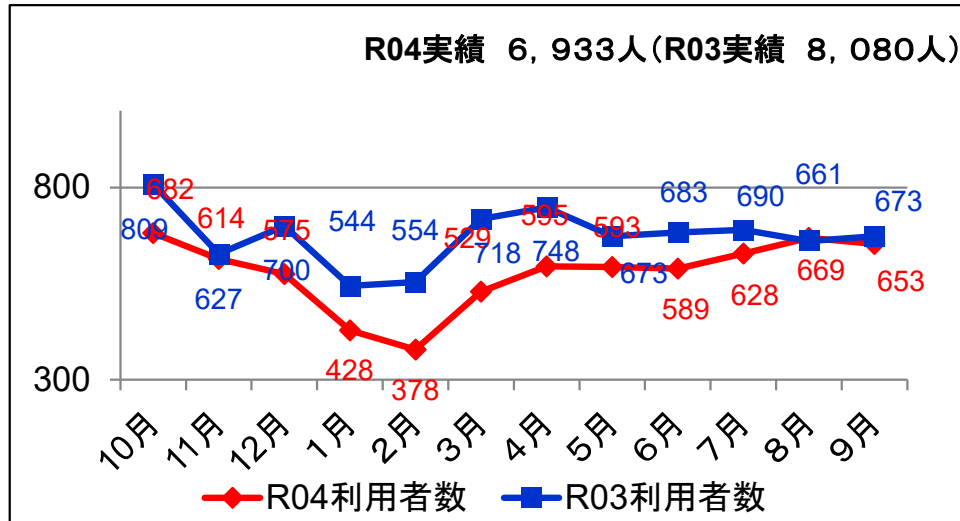
1) プロセス、創意工夫

- ・フリー乗降制を全区間で実施した。
- ・全バス停留所を記載した時刻表を作成し、町内全戸へ配布した。（令和4年4月）
- ・運転免許証を返還した高齢者及びその配偶者を対象に町内路線バスの定額券（1乗車あたり100円）を交付し、高齢者の交通事故防止と路線バス利用者の増加を図った。
- ・ICカード乗車券を利用することによる定額運賃制度（特定区間1乗車あたり100円）を継続し、ICカードの普及による、路線バス利用者の利便性の向上と増加を図った。
- ・下り最終便終点手前停留所で乗降客がない場合、回送運行を行った。
- ・交通系ICカードと上ノ国町健康ポイント事業との連携による、ポイント付与事業を実施し、交通系ICカードの普及と路線バス利用者の増加を図った。

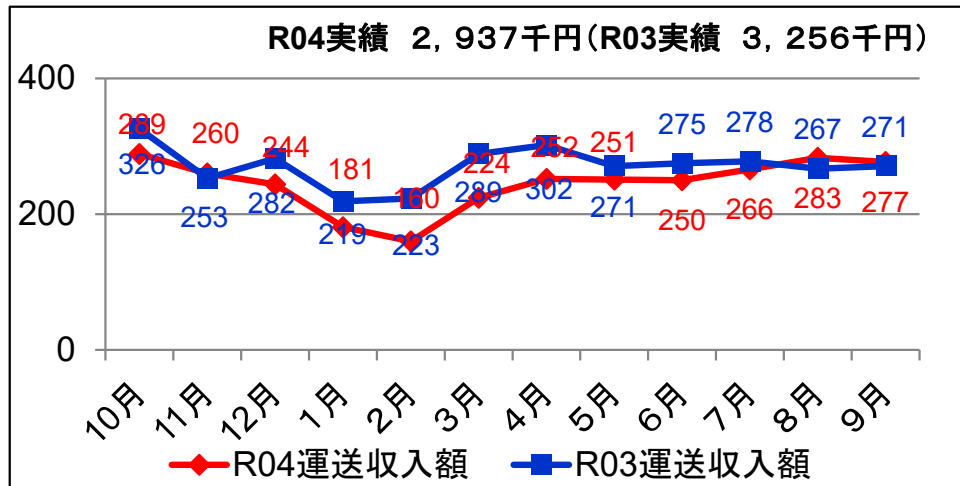
2) 運行系統



3) 利用実績



4) 収入実績



(参考資料)

生活路線バス「小砂子線」に係る経常損益算定表

年 度		令和4年度	令和3年度
運 行 回 数 (平 均)	(回)	4.4	4.5
実 運 行 日 数	(日)	364	364
実 運 行 回 数	(回)	1,578.5	1,634.5
乗 車 走 行 キ ロ	(キロ)	118,865.6	118,931.2
乗 車 密 度		0.5	0.6
輸 送 量	(人)	2.2	2.7
経 常 費 用	(千円)	32,882	32,817
	キロ当たり経常費用 (円)	276.63	275.93
経 常 収 益	(千円)	3,935	4,113
	運 送 収 入 (千円)	2,937	3,256
	そ の 他 収 入 (千円)	998	857
経 常 損 益 (赤 字 額)	(千円)	▲ 28,947	▲ 28,704
負担内訳	国 庫 補 助 金 (千円)	5,055	11,711
	町 補 助 金 (千円)	23,891	16,992
	そ の 他 (千円)	1	1

国庫補助金は確定前(令和5年1月20日現在)。

5)事業実施の適切性

○事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

○利用者数などは目標に達しておらずバスの利用者減っているが、生活に密着した区間は確実に利用されている。

また、下り最終便空車時（終点手前停留所で乗降客がない場合）回送運行を引き続き行い、効率的な運行が図られたほか、フリー降車を継続して実施し、利用者の利便性向上が図られた。

○免許返納高齢者の定額運賃制度・ICカード利用者の定額運賃制度を実施したことにより利用者の利便性が向上した。

6)目標・効果達成状況

○乗車密度が、目標の1.15人に対して0.58人であった。（前年度0.64人）

※算出根拠 $\text{運送収入} \div (\text{実車走行キロ数} \times \text{平均賃率})$
 $2,937,474\text{円} \div (118,865.6\text{km} \times 42.64\text{円})$

○目標の1,950人に対して1,524人であった。
（前年度 1,774人）

※算出根拠 $\text{年間利用者数} \div \text{住基人口} \times 1,000\text{人}$
 $6,933\text{人} \div 4,549\text{人} \times 1,000\text{人}$

○利用状況を分析すると、「上り第1便」の利用者数が大きく減少しており、要因としてバス通学する生徒数の減少が考えられる。また、「上り第2便」や「下り第1便」は利用者がやや増加しており、石崎から花沢温泉の区間で利用が増えていることから、温泉利用者がバスを利用していると考えられる。昨年と比較し、全体的なバス利用者数は減少しているものの、生活密接に関わる買い物等の際に、自動車等の自ら移動手段を持たない住民に対し、日常生活に必要不可欠な交通移動手段が確保された。

7)事業の今後の改善点

○町広報誌や町ホームページへ運行ダイヤを掲載するなど広報活動に力を入れ、新たな利用者の拡大を図る。

○現在実施している免許返納高齢者の定額運賃制度、ICカード利用者への定額運賃制度を広報誌などを通じて周知し、路線バス利用者の更なる増加を図る。

8)地方運輸局における二次評価結果

- ・ 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・ 目標を達成することができず、また、昨年度よりも利用が減少していることから、利用状況の分析結果を基に利用者ニーズのくみ上げを行い、更なる利用促進の取組を期待する。
- ・ 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただくとともに、今後も継続的に実施していくためにも地域公共交通計画の策定を強く期待する。